

広島の色

～都市の景色を彩る～

今川 朱美*

(平 20 年 10 月 31 日受理)

Impression Colors as an Urban Image in Hiroshima

Akemi IMAGAWA-SATO

(Received Oct. 31, 2008)

Abstract

In my course on “Urban Planning (the 1st semester, 2007)” for sophomores and “Landscape Engineering (the 2nd semester, 2007)” for seniors at our University, I gave such a lecture as the history of Kyoto and changes in the city.

On this basis I then assigned the students to obtain and sample a color item typical of Hiroshima and write a report. This required both field work and the use of reference materials. Even students with little experience of writing reports were interested in the topic, and I gave a model to them and to them explained how they should carry out their investigation. After setting similar assignments for the past some years, I published a paper in “Research bulletin of the Hiroshima Institute of Tech, vol.42” based on statistical analyses of the reports submitted: “Impressive as an Urban Image in Kyoto”. Before the fifth group carried out their assignment I showed them the published papers, which included the names of students whose reports I cited, and nearly all the students voluntarily submitted several reports each.

In choosing the present topic, I aimed to have the students sample Hiroshima’s color culture for themselves, become aware of the long history behind its flavors, and come in contact with traditions unique to Hiroshima. Of the 82 reports (96 colors) received, most of the students chose “red” from Miyajima, carp and a war. When they think of Hiroshima’s Red, every gradation of feeling from joy to grief and history gave the image of color from red to Orange. Also, I have compared vermilion-scarlet in Kyoto with red-crimson in Hiroshima. Color differs from city to city, because each city has a long and glorious history and changes its appearance as well as image of color with surprising.

Key Words: color landscape, Urban Design, image color of Hiroshima,

* 広島工業大学工学部都市建設工学科

1. はじめに

まちづくりを考える上で、その地域の歴史のみならず、生活や文化を知ることは重要である。また、「色」をたどることは、その国の文化をたどることだとも言われており、色とは単なる色彩の現象ではなく、様々な事柄を伴って存在している。色の意味を追求すれば、その地域の風習や価値観、美意識などをさぐる手がかりとなることはいうまでもない。近年では、景観の要素としても色彩が重要なキーになっていることが認識され、「美しい景観＝色彩の美」であるとも言われている。地域計画の手法として、地域のイメージカラーを戦略的に使用する例も見られ、景観条例などによる色の規制も盛んに行われるようになった。

昨年、京都の色について調査・考察を行ったが、今回は、広島について同様のことを行い、国際観光都市である二つ












の都市を比較しようというものである。

今回は、本学の都市建設工学科（新学科）2年生を対象とした「都市計画」、社会建設工学科（旧学科）4年生の選択科目である「景観工学」を履修した学生（都市計画＝66名、景観工学＝32名）に「広島の色」と題するレポート課題を与えた。色に関して、無関心であった学生に、色のメカニズムを説明し、都市計画及び景観上どのような効果があるのか、また、色彩計画について講義を行ったうえで、「広島の色を探そう」と呼びかけた。また、「広島をイメージする色」について京都を例に説明し、広島のどこにそのようなシンボリックな色があるのか記憶をたどり、実際に見に行き、色を確かめて、その色はどのような色なのかを調べるようにと説明をした。計98名の履修学生から、82本（96色）のレポートの提出があった。履修学生数とレポート数が一致しないのは、希望者はレポートではなく期

表1 広島 of 公共交通機関の色

色	抽出された色	件数	イメージ
	R255 G140 B0		アストラムライン
	R0 G128 B0	3	広電 GREEN MOVER (※1)
	R34 G139 B34	2	グリーンムーバーの緑
	R25 G127 B39		市電 グリーンムーバー
	R0 G102 B40 + R229 G183 B90		広島電鉄 650 型の緑 + 茶
	R51 G102 B59		市電 714 号
	R76 G153 B61		広電バス
	R166 G59 B26 + R255 B255 G255 + R203 G134 B57		日本初のバス「かよこバス」
	R25 G100 B0		市電の看板

表2 広島 of 建築物と工作物の色

色	抽出された色	件数	イメージ
	R255 G0 B0	7	厳島神社と大鳥居
	R255 G40 B25 + R255 G29 B0		厳島神社の朱色と紅赤
	R253 G9 B3		宮島の厳島神社の朱色
	R255 G69 B0		厳島神社
	R248 G126 B49		厳島神社の朱色の大鳥居
	R238 G82 B17		厳島神社大鳥居の朱色
	R229 G38 B0	2	宮島の大鳥居
	R237 G109 B61		宮島大鳥居の柿色
	R74 G178 B70		市電停留所のイス
	R255 G0 B0		広島市民球場（カープ）
	R204 G51 B51		広島城の朱色（シンボルマーク）

※1 > 広島電鉄 GREEN MOVER

アルミニウム製の車体を持つ、5車体6軸の関節式連節車で、低床車。ドイツのシーメンス交通システム社で5001～5012の12編成が1999～2002年の間に製造された。

広島の色

表3 広島の自然の色

色	抽出された色	件数	イメージ
	R204 G0 B27 + R229 G0 B30		県木・県花としてのもみじの赤（唐紅と真紅）
	R239 G69 B74		宮島の紅葉の朱色
	R255 G113 B70		もみじの色（県木、もみじ銀行、もみじ谷、三段峡）
	R253 G21 B3	2	紅葉
	R180 G31 B46		紅葉
			山の緑
	R37 G51 B30		公園の緑
	R204 G255 B212		公園の植物
			コイン通りの桃色（杏の花の色）
	R22 G58 B76		太田川（広島旧市内）の紺色
	R0 G100 B0		瀬戸内海の深緑
	R0 G0 B255		瀬戸内海の海の色青
	R49 G108 B178		瀬戸内海の青
	R30 G144 B255		広島県鳥であるアビの背中の色青
	R172 G157 B167		県鳥アビの灰色

表4 広島の地域・企業・学校・チーム色

色	抽出された色	件数	イメージ
	R220 G20 B60		広島東洋カープ（アンケートの実施）
	R255 G0 B0	3	広島東洋カープの赤
	R224 G2 B48		カープ
	R255 G10 B10	5	カープの赤
	R73 G35 B102		サンフレッチェ広島
	R103 G69 B152	2	サンフレッチェ広島の青紫（※2）
	R135 G0 B204		サンフレッチェ広島の堇色
	R16 G201 B141		JTサンダーズのコバルトグリーン
			広陵高校の制服のエンジ
	R222 G222 B222		「MIKASA」のバレーボールの白
	R32 G96 B192		広島銀行

※2 > 広島のプロサッカーチーム「SANFRECCE」のチームカラー（表4）

チーム名は、日本語の「三」とイタリア語の「フレッチェ=矢」を合わせた言葉で「三本の矢」を意味する。広島にゆかりの深い戦国武将である毛利元就の「三本の矢」の故事からとり、広島のプロサッカーチームが、広島の県民・市民・行政・財界の三位一体の力によって支えられていることを示している。また、チームスポーツに基幹をなす「技術、戦術、体力」の三要素、選手個々に必要とされる「心、技、体」の三原則にもつながる。チームカラーのバイオレット（青紫）は、マツダSC時代のカラーである青をクラブカラーとして申請していたが青を希望したクラブが多かったため、紫になった。

（A504154 松原良享）



図1 チームマスコット

表5 広島を食べ物の色

色	抽出された色	件数	イメージ
	R153 G76 B0		もみじ饅頭
	R220 G20 B60		もみじ饅頭
	R210 G105 B30		もみじ饅頭 (チョコレート色)
	R201 G23 B30		広島風つけ麺の激辛のつけだれの深緋 (こきひ)
	R220 G45 B10		つけ麺の唐辛子入りのタレ
	R139 G0 B0		広島風つけ麺 (タレ)
	R62 G17 B14		お好み焼きのソース
	R255 G255 B0		お好み焼きのたまご
	R0 G255 B0		お好み焼きのキャベツ
	R166 G60 B60		お好み焼きの豚肉
	R237 G224 B224		生牡蠣色
	R255 G228 B181		牡蠣の moccasin
	R89 G178 B71		広島菜
	R30 G144 B255		広島が全国に誇る『樞のしづく青 (酒)』の色青
	R241 G159 B78		山の自然：マツタケ
	R242 G212 B174		〃
	R208 G179 B134		〃

表6 広島と戦争の色

色	抽出された色	件数	イメージ
			平和公園慰霊碑などの白
		2	平和記念資料館の白 (?)
	R188 G143 B143		原爆ドーム
	R174 G171 B166		原爆ドームの外壁の色
	R143 G134 B103		原爆ドーム (旧広島県産業奨励館) の利休色
	R0 G82 B67		原爆ドーム (旧広島県産業奨励館) の鉄色
	R0 B85 B46		平和記念公園一帯に広がる樹木の深緑
	R34 G139 B34	2	被爆アオギリの緑・平和のイメージの緑
			原爆ドームと原爆の血の赤
	R174 G6 B6		原爆投下後の赤
	R68 G60 B56		被爆後の煙と雨
	R10 G10 B10		黒～黒い雨～ (自作の図参照)
	R204 G51 B51		広島城の朱色
			広島城の戦の血の赤
	R139 G0 B0		仁義なき戦いの血しぶきのダークレッド
	R47 G59 B51 + R178 B44 B0		戦艦のグレーと赤
	R30 G144 B255		平和を象徴する自由の色青

末テストにより単位を取得したこと（レポート免除）、興味があり数本のレポートを提出した者（レポート数増加要因）がいたためである。そのレポートを基に、広島の色について考察し、色から広島像を浮かせようというのが、目的である。

まず、提出されたレポートをカテゴリごとに分類した。広島には公共の色彩を考える、「広島パブリックカラー研究会^{*1)}」という活動グループがあり、広島の色を10のカテゴリに分類している。それを参考にしながら、独自のカテゴリも加え、①広島の公共交通機関の色、②広島の建築物と工作物の色、③広島の自然の色、④広島の地域・企業・学校・チーム色、⑤広島の食べ物の色、⑥広島と戦争の色、の6つのグループに分類し、表1～6にまとめた。

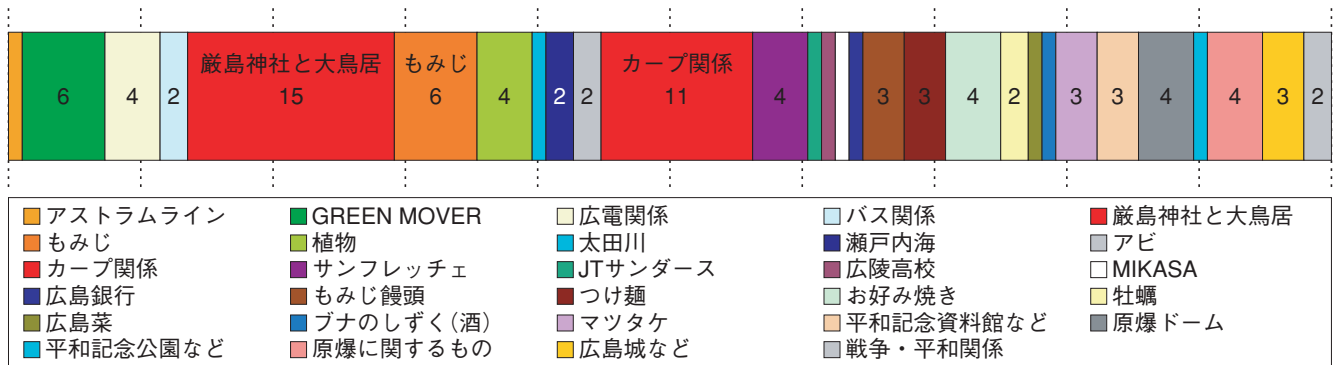
2. 広島をイメージする色

広島に街には、広島をイメージする色が存在するという大前提の上で、学生らに今回のレポートを課した。広島に生まれ育ち本学に在籍する学生、広島外部から本学入学を

期に、広島との係わりをもった学生では、広島らしさの基準が異なるのではないかと思ひ、授業の中で挙手によりたずねたところ、地元の学生と他都市に実家のある学生の割合はほぼ同数であった。何についてしらべるかを事前に問うたところ、その両者に大きな意識の違いがなかったため、今回はイメージする色の比較は不可能と判断し、補正は行わないこととした。

学生らが、広島をイメージする色としてレポートしたものをカテゴリ別に見ると、①公共交通が対象とするもの：12本、②広島の建築物と工作物：17本、③広島の自然の色：16本、④広島の地域・企業・学校・チーム色：19本、⑤広島の食べ物の色：17本、⑥広島と戦争の色：19本と、カテゴリごとに12～19本のレポートとなっている。その中で特にレポートが集中したものは、厳島神社と大鳥居の朱色が全体の約15.6%、プロ野球チームの広島東洋カープが11.5%、広島県の県木である紅葉（もみじ）は、6.3%となっている。（図2）

図2 広島をイメージする色



3. 宮島の朱色

最も多かった厳島神社と大鳥居の朱であった。宮島の厳島神社は、広島のランドマークともなる世界遺産であり、多くの人の目に触れる注目度の高い建築物である。その色を広島の色とするのは、当然といえる。同時に、もみじの朱を選んだのも6名いたが、もみじに関するものとして、もみじ饅頭を選んだ者も3名いたことから、選ばれた理由としてなじみが深い、ということが言えるのではないか。広島県の県木として制定された理由は、もみじが広島県全域に分布し、特別名勝三段峡、名勝帝釈峡、日本三景宮島などもみじの名所が多くあるため、とされている。なお、本来は木々が色づくこと全般を「紅葉（モミジ）」と言っているが、広島では紅葉する木の中で際立って美しいカエデが赤く色づいたものを「もみじ」と呼んでいる。



図3 大鳥居

R255 G0 B0
宮島の赤色。大鳥居のイメージが強かったから。

(A504189 横山嵩士)






図4 宮島の紅葉

R239 G69 B74
紅葉の朱色。もみじの宮島がすごく印象深かったから。

(A504189 横山嵩士)

ユニークであったのは、宮島の厳島神社本殿、回廊、大鳥居の写真を撮影し、写真から色を抽出し、それらを平均化したものを広島の色としたレポートであった。

大鳥居		R246 G65 B44
厳島神社本殿		R234 G85 B17
厳島神社回廊		R235 G97 B1

↓


広島（宮島）の色		R238 G82 B17
----------	---	--------------

図5 広島の色を平均値から求める (AC06125 和田雄紀)


4. 鯉城と東洋カープの赤

広島と言えば広島城を思い浮かべるが、色はイメージしにくいとして、広島城の調査を行った例もあった。本年（H20年度）に向けて広島城では天守閣再建50周年記念事業が展開されており、シンボルマークがある。このシンボルマークの色こそが、広島を象徴する色だとしている。このシンボルマークのデザインは公募されたものであり、マークにも使われている朱色は宮島や広島東洋カープの色をイメージしている。

そもそも、広島の太田川は鯉の名産地であり、広島市西区己斐の地名は延喜式で嘉字地名とされる前は「鯉」であったと言われ、ここから鯉城の別名がついた。一説には堀にたくさんの鯉がいたため、又は天守が黒いからとも言われている。また、この別名から広島東洋カープの名称が決まった。広島城周辺には鯉城タクシー(株)をはじめ、鯉城〇〇という店舗や企業が数多く存在する。




図6 鯉（広島）城

 R255 G0 B0

広島城天守閣は、原爆の惨禍で崩れていたが、郷土のシンボル・広島市復興の象徴として昭和33年に復元された。
(A505120 原田和寛)



図7 シンボルマーク

 R204 G51 B51

平成20年は、天守閣が復元されてから、ちょうど50年なので、50周年関連事業を盛り上げるものとして広島城シンボルマークを製作した。
(A505120 原田和寛)

鯉城には黒い鯉を連想するが、広島東洋カープの赤が錦

鯉の中でも紅白（こはく）※²⁾と呼ばれる白地に赤（紅）だけの模様のある品種をイメージさせるため、今回のシンボルマークは錦鯉の模様に城の姿を重ねたものとなっている。イメージが往来する中で、イメージする鯉の色が黒から赤へ変わってしまっている。その変容した後の色を広島の色として選んでいるところに広島の歴史の断片を見ることが出来る。

鯉城から名称を決めた広島東洋カープは、1949年、原爆による壊滅的被害からの復興を目指しプロ球団を設立した。主たるバックアップのない球団であったため、球団経営状況から解散の話が設立後まもなく持ち上がったが、広島市民が酒樽に募金を募った「樽募金」で球団存続を果たしたことは、良く知られている。それほどまでに広島市民に愛される球団であった。この球団のチームカラーが赤となったのは1973年にユニホームが一新され、背番号などが赤の縁取りとなりストッキングなどに赤いラインが入ったことから始まったとされる。1975年にヘルメットも燃える闘志を示すために赤となり、1977年にアンダーシャツとストッキングが赤となったころには、カープ=赤が定着したとされる。とすると、カープの赤は35年ほどの短期間に、広島を代表する色と認識されるまでになったのである。

5. 広島の文化そして風景と色

広島の美味しいものと言えば、お好み焼き（4本）、もみじ饅頭（3本）、そして広島牡蠣（2本）であるが、これら3つともが、広島の色としてレポートされている。

牡蠣は、全国で生産されている50%以上が広島県産となっている。太田川から肥沃な水が注ぎ込まれる広島湾は波が穏やかで、牡蠣の養殖に適しているためである。この自然条件を広島特有のものとして、太田川（1本）、瀬戸内海（2本）取り上げたレポートもあった。象徴的な食文化を表す色もレポートされているのが嬉しい。

また、広島の風景を思い浮かべられる色も選出されている。歴史的な風景、広島独特の自然のある風景、今の広島の都市風景から、それぞれ複数のレポートが提出された。広島の歴史条件としての風景と色は、先に述べた宮島の朱に代表されるもの（表2 広島の建築物と工作物の色）であり、自然条件としての風景と色は太田川や瀬戸内海など（表3 広島の自然の色）が揚げられている。現在の都市風景として広島の交通（表1 広島の公共交通機関の色）が選出されている。広島電鉄関係の色をレポートしたものは9名いたが、うち6名がGREEN MOVER（グリーンムーバー）を取り上げている。

6. 平和を願う広島戦争の色

城下町として栄えた広島街、戦前・戦後の広島街が変容をとげてきたが、その度に多くの命を失ってきた。戦争をイメージさせるモノや事柄の色を、広島の色とした学生は、19名であった。

無彩色の白～黒を選んだケースを見ると、白＝平和記念資料館、灰褐色＝原爆ドーム、ダークグレー＝被爆後の煙と雨、黒＝黒い雨（原爆）、となっており、平和～戦争又は原爆というイメージのグラデーションが成り立っている。

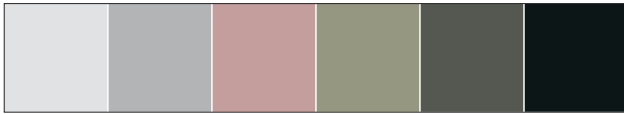


図8 平和（白）から戦争（黒）へのグラデーション

赤または赤黒を戦争関係の色としている場合、原爆＝炎、または、戦争＝血をイメージしている。興味深いのは、近年の戦争も、戦国時代も、いずれも血を連想していることである。原爆ドームからも、広島城からも、戦争があったことを思い、血を流した人々がいるということを描く者がいるということが明らかになった。平和を啓蒙する広島としては、原爆ドームのみならず広島城もが、戦争の愚かさを考えさせることのできるモニュメントであり平和のためのメッセージを発信する効果があることが再確認できた。



図8 原爆ドーム

R143 G134 B103

現在の原爆ドームの外壁の色（利休色）

1945年被爆。最上部の円蓋鉄骨の形から、爆ドームと呼ばれるようになった。

(A504095 竹下真太郎)



図9 広島県産業奨励会館

R0 G82 B68

当時（原爆投下前）のドームの色（鉄色）

1915年竣工。特徴ある緑色のドームによって地域住民に親しまれていた。

(A504095 竹下真太郎)

を抽出したレポートがあった。利休色は、原爆ドームの壁面の色そのものであろうが、鉄色というのは、黒ずんだ青緑色のことである。染色の色で、日常に使われた色の名称ではないが、色の由来を調べると、鉄の焼肌のような色^{※3)}となっている。英語の iron grey（アイアン・グレー）は緑がかったグレーであることから、鉄の色から緑を感じ取れるのかもしれないが、それにしても原爆ドームから、この色は得られない。レポートには、原爆ドームが広島県産業奨励館であった頃のドームの色が、この色であったのではないかとまとめてあった。

7. むすびに

十人十色との言葉通りで、同じ厳島神社の朱色を広島の色として選んでいても、明度や彩度が異なる。見え方や写真の撮り方などによるものと思われるが、ここに、この調査の面白さがある。分光測色計や色彩色差計を使用すれば色のばらつきは解消できが、学生らが色に取り組む際の省力化につながり、悩んだり考えたりすることも少なくなってしまう。RGBをどうやって示すのか、色をどのように見つけるのか、2ヶ月あまりの試行錯誤の上で選び出された色だからこそ、意味があったのではないか。

広島の色といえば、宮島（厳島神社と大鳥居）の朱。広島カープの赤。そして戦争の赤。都市ごとに認識されている色を比較すると、同じ赤であっても京都の赤は平安神宮や伏見稲荷の朱に、毛氈の紅、鞍馬の火祭りの緋。それぞれの街がたどってきた軌跡が、同じ赤を選んでも深みを違えている。年代によって、また時代によって、都市の色は変わっていくのであろう。都市が変容するように、都市の色も変色していくのである。

註

- 1) 広島パブリックカラー研究会：目にはいる「色彩」を切り口にして、問題提起や研究、発表活動を行なっている団体。
(<http://www.pc-ken.jp/>)
- 2) 紅白：白地に赤（紅）だけの模様の錦鯉。錦鯉の中で、最も代表的な品種。紅白だけで18種類以上も細分化される。
(<http://www.e-koi-world.com/>)
- 3) 参考文献2)

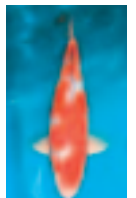


図10 紅白

参考文献

- 1) 今川朱美『都市の景色を彩る～京都の色』広島工業大学紀要（研究編）第42巻，2008.2
- 2) 福田邦夫『色の名前辞典』主婦の友社，2001

特殊な例としては、原爆ドームの色から、日本の伝統色